

佐藤成広作「自由② 何やってもいいって言われたら？」

- 小林先生 …そういうわけで、今日からは2年生と1年生だけで練習していくことになる。始めのうちは少し寂しいだろうが、部長の中村を中心に頑張って、冬季練習に励んでほしい。
- 前田進(モノローグ) 締め閉め、うるさい3年もいなくなったことだし、これからは1年をみっちりしごいてやるぞ。何をやっても、もうだれも文句言うやつはいないんだから。さて、何からやらせようかな。
- 中村正男 それじゃあ、短距離は5千、長距離は1万ジョグ行くぞ。女子は3千でいい。つけるところまでついてこい。
- 効果音 (ジョギング)
- ナレーション この高校の陸上部は、毎年インターハイ出場選手がたくさん出る陸上競技の名門校。子の陸上部は民主的で、部員全員の仲間意識が強いという伝統があるのですが、3年生引退後、その伝統が崩れかけてきたようです。
- 正男 (激しい息使い) 終わったやつはすぐ止まっちゃダメだぞ。苦しくても歩くんだけ。歩いて呼吸を整えるんだ。
- 進 おい、加藤！ ちょっと来い。
- 加藤明 前田先輩、なんですか？
- 進 お前、ジュース買ってこい。
- 明 先輩、まだ練習中ですよ。
- 進 いいから買ってこいって言うのが分からねえのか？!
- 明 でもおれ、金持ってません。
- 進 部屋行って、だれかの制服のポケット探してみろ。
- 明 でも…。
- 進 でもクソもあるか！ お前、先輩の言うことが聞けないのか？
- 明 (しぶしぶ) はい…。
- 進 分かったら部屋へ行ってこい。だれにも気づかれるなよ。
- 明(モノローグ) なんておれが盗みなんかしなきゃいけないんだ？ ジュースぐらい自分で買いに行けてんだ。それに大体、練習中じゃないか。…でも、前田先輩は怖いからな。ジュース買ってかなかったら、何されるか分からねえぞ。でも盗んだら、みんなに迷惑がかかるしなあ。どうしようかなあ。100円ぐらいだったら、取っても分からないかなあ。この次から断ればいいや。もうすぐ部室だ。見つからないようにそつと行こう。
- 正男 おい、進。加藤どこ行ったか知らないか？
- 進 知らねえな。どっかでサボってるんじゃないか？
- 正男 加藤はそんなやつじゃない。きっと今の5千がこたえて、気持ち悪くなっているんだろう。おれ、ちょっと探してくるから、あとを頼む。
- 進 おい、ちょっと待てよ。何をやってりゃいいんだよ？
- (正男去る)(モノローグ) あ～あ、行っちゃった。加藤が見つからなきゃいいんだがな。あいつが見つかって、おれのことを口に出したら、ただじゃおかないぞ。
- 効果音 (ポケットを探る音)
- 明(モノローグ) これ、だれの征服かな。財布がヤケに重たいぜ。(財布を開ける音) 100円玉が、1、2、3、

4、5、6、7、8、9、10、11枚。それに、500円札が2枚。あ、すげえや、1万円札まで入ってるぜ。これなら、少しぐらい取っても分からねえな。

効果音

(戸の開く音)

正男

おい加藤！ そんなところで一体何をやってるんだ?!

明

あ、あのう…、ちょっと気持ちが悪かったんで、休んでいたんです。

正男

そうか。ところでお前、何隠してんだ？ ラブレターか？

明

な、なんでもありません。

正男

いいから見せてみろ。相手はだれだ？ (財布の落ちる音)おい 明、これは一体どういうわけだ?! お前、まさか…。

明

先輩、すみません。

正男

本当にお前、やったのか？ お前はそんなことするやつじゃないと思ってたのに。だれかにそそのかされたんじゃないのか？

明

いいえ、僕がやったんです。好きなようにしてください。

<完>